

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社 光生 工場	階数	地上2階
建設地	愛知県刈谷市野田町新田39、40、41	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	80 人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年3月 予定	評価の実施日	2022年4月11日
敷地面積	7,070 m <sup>2</sup>	作成者	藤川 浩
建築面積	2,502 m <sup>2</sup>	確認日	2022年4月11日
延床面積	3,203 m <sup>2</sup>	確認者	藤川 浩



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)												
<p><b>BEE = 1.1</b> ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>138 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td>46</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td>92</td> <td>78%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td>138</td> <td>78%</td> </tr> </table>	①参照値	138 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%	②建築物の取組み	46	78%	③上記+②以外の	92	78%	④上記+	138	78%	
①参照値	138 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%												
②建築物の取組み	46	78%												
③上記+②以外の	92	78%												
④上記+	138	78%												

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> <b>Qのスコア = 2.7</b></p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> <b>Q1のスコア = 3.2</b></p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> <b>Q2のスコア = 3.1</b></p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> <b>Q3のスコア = 2.1</b></p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> <b>LRのスコア = 3.4</b></p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> <b>LR1のスコア = 3.9</b></p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> <b>LR2のスコア = 2.8</b></p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> <b>LR3のスコア = 3.2</b></p>

3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮 <b>3.8</b></p>	<p>③敷地内の緑化 <b>1.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積) <b>4.6 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積) <b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用 <b>2.9</b></p>	<p>④地域材の活用 <b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt; なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt; なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体
配慮項目	独自基準 重点項目	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体		
					評価点	評価点	重み係数	評価点		評価点	重み係数
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.7</b>	
<b>Q1 室内環境</b>										<b>3.2</b>	
<b>1 音環境</b>										<b>3.2</b>	
1.1 室内騒音レベル				0.1	3.2	0.15	-	-	-		
1.2 遮音				3.0	3.0	0.40	-	3.0	-		
1 開口部遮音性能				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.60	-	3.0	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.40	-	3.0	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	-	3.0	-		
1.3 吸音			壁、床、天井のうち二面に吸音材使用	-	4.0	0.20	-	3.0	-		
<b>2 温熱環境</b>										<b>3.0</b>	
2.1 室温制御				0.3	3.0	0.35	-	-	-		
1 室温				0.5	3.0	0.50	-	-	-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38	-	3.0	-		
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.25	-	-	-		
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.38	-	-	-		
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.20	-	3.0	-		
<b>3 光・視環境</b>										<b>3.0</b>	
3.1 昼光利用				0.2	3.0	0.25	-	-	-		
1 昼光率				0.3	3.0	0.30	-	-	-		
2 方位別開口				3.0	3.0	0.60	-	3.0	-		
3 昼光利用設備				-	-	-	-	-	-		
3.2 グレア対策				3.0	3.0	0.40	-	3.0	-		
1 昼光制御				0.3	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 照度				5.0	3.0	1.00	-	3.0	-		
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.15	-	3.0	-		
<b>4 空気質環境</b>										<b>3.8</b>	
4.1 発生源対策				0.2	3.8	0.25	-	-	-		
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆を採用	0.5	4.0	0.50	-	-	-		
4.2 換気				3.0	4.0	1.00	-	3.0	-		
1 換気量				0.3	3.3	0.30	-	-	-		
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	3.0	-		
3 取り入れ外気への配慮			取り入れ口と排気口が&m以上離れている	3.0	4.0	0.33	-	3.0	-		
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20	-	-	-		
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
2 喫煙の制御			全面禁煙	3.0	5.0	0.50	-	-	-		
<b>Q2 サービス性能</b>										<b>3.1</b>	
<b>1 機能性</b>										<b>2.8</b>	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.8	0.40	-	-	-		
1 広さ・収納性				0.4	2.3	0.40	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応				3.0	1.0	0.33	-	3.0	-		
3 バリアフリー計画		独自		3.0	3.0	0.33	-	3.0	-		
1.2 心理性・快適性				3.0	3.0	0.33	-	-	-		
1 広さ感・景観 (天井高)			2F事務所天井高3m	0.3	3.3	0.30	-	-	-		
2 リフレッシュスペース			食堂部分リフレッシュスペース	3.0	5.0	0.33	-	3.0	-		
3 内装計画				3.0	4.0	0.33	-	-	-		
1.3 維持管理				3.0	1.0	0.33	-	-	-		
1 維持管理に配慮した設計				0.3	3.0	0.30	-	-	-		
2 維持管理用機能の確保				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
<b>2 耐用性・信頼性</b>										<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.3	3.0	0.31	-	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.4	3.0	0.48	-	-	-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.80	-	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-		
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		-	3.0	0.23	-	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔			耐用年数の長い配管材を使用	-	5.0	0.15	-	-	-		
2.4 信頼性				-	3.0	0.23	-	-	-		
1 空調・換気設備				0.1	2.8	0.19	-	-	-		
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-		
3 電気設備				3.0	2.0	0.20	-	-	-		
4 機械・配管支持方法		②		3.0	3.0	0.20	-	-	-		
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-		

3 対応性・更新性			0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31	-	3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.4	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	4.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	4.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	4.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.36	-	-	-	2.1
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	3.9
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI=0.8	3.0	5.0	0.24	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.14	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.68	3.0	4.2	0.43	-	-	-	4.2
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	2.8
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			-	2.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.8	0.33	-	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.0	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	1.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	1.00	-	-	-	
2	振動	独自	-	-	-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制		-	3.0	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.8</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.9</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11	外構緑化:4.6%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	室内環境については仕上げ材にF☆☆☆☆の材料を使用するとともに、全面禁煙としている。また、適切な量の緑地を設けることで配慮している。室外環境については駐車場、駐輪場を設けることで配慮している。
Q1 室内環境	室内環境については仕上げ材にF☆☆☆☆の材料を使用するとともに、全面禁煙としている。
Q2 サービス性能	耐用年数の長い配管材を使用している。
Q3 室外環境(敷地内)	適切な量の緑地を設けている。
LR1 エネルギー	高効率の設備を採用している。
LR2 資源・マテリアル	OAフロアを採用している。
LR3 敷地外環境	適切な量の駐車場、駐輪場を設けている。
その他	